

▼オピニオン：インフラテクコンから広がる社会 インフラテクコンに参加し感じたこと

一般社団法人日本橋梁建設協会 戦略広報ワーキンググループ
株式会社IHインフラ建設 橋梁管理部プロジェクトグループ
逸見 茜



1. はじめに

私は、2019年に日本橋梁建設協会が発足した戦略広報ワーキンググループに所属しており、就職先の一つとして橋梁業界を選んでもらう、より多くの人たちに鋼橋を知ってもらうことを目的に、月1回同業他社の若手技術者と活動をしています。その活動のなかでアイセイ(株)さんと知り合う機会を持ち、第1回インフラテクコンに参加する運びとなりました。

2. 事前検討

初めての取組みのため、高専生が企画を十分に理解できるか等の見極めとして、土木学生および若手社員が集まりプレ検討（応募様式の実行）を行いました。集合したメンバーは、今まで学んできたこと、仕事の事業内容が異なる上、接してきたインフラのかたちが違うため、企画書を作成することができず焦りを覚えました。一方、私が知らないインフラがあること、人によっては何かがそのインフラの問題点であるか理解している人、理解できていない人がいることが分かり、とても新鮮な気持ちを抱きました。そして、より世の中にインフラの重要性を広めることが大切であると感ずるきっかけになりました。



写真 1 事前検討の様子

3. 交流会当日

事前に応募内容（TSURISHO）を受領し各チームの取組み内容はみていましたが、実際にプレゼンや展示パネルをみて、インフラを活性化させる（世の中に周知させる）アイデアや高専生の熱意を感じることができました。それと同時に、自身の学生時代はインフラについて何も理解できていなかったな…インフラを学ぼうと行動するきっかけがなかったな…と感じ、インフラテクコンは良い啓発になると感じました。



写真 2 交流会の様子

4. さいごに

インフラテクコンは、高専生以外にインフラに従事している各社との繋がりもあり、多くの業種・事業を知ることができる機会であると感じ、誰もが改めてインフラの大切さを認識できる取組みだと思いました。インフラテクコンを通じ、学生の頃からインフラを身近に感じ、その重要性や問題を学ぶことで、インフラを支えたいと思う人材が増えるきっかけになると良いと思います。